

佛書解說大辭典

大東出版社藏版



本書編纂要解

一、本書は佛教に關する刊行物を東西兩洋に亘り、その大は一切經に收むる數千の經論より、その小は市井に埋もるゝ一論一文の小冊子に至るまで、これを擧ぐるは勿論、遠く散逸してその影を止めざるもの、或は貴重なる寫本の類に至るまで一切の典籍を收め盡し、これに現代最新の配列法（書名の首字を所謂五十音順音引假名遣に配列）により一々に内容解説を施し、且つその所在を明示したものである。

一、本書は邦語漢語佛教典籍（昭和七年十月卅一日刊行の分迄）の全部六萬五千五百餘を收む。即ち各種藏經より約八千、佛教全書、佛教大系等一般佛教叢書並に各宗關係の全書全集類約七千、各大學圖書館（京大、龍大、谷大、京專、高野山、正大、駒大、立正、東洋等）並に宮内省圖書寮、內閣文庫、帝國圖書館其他一般圖書館所藏のもの約十萬、東域傳燈目錄、諸宗章疏錄、八家請來目錄、眞宗教典志、扶桑禪林書目、其他諸目錄より約二萬の古逸註疏書目、出三藏記、歷代三寶紀等より偽經、抄經、闕本、失譯經の書目約一萬五千を涉獵し、以上全部の書目カード中の同一書を整理して六萬五千五百餘部の佛教典籍を採録した。

一、本書は以上六萬五千五百餘部の典籍を便宜上五類に分類した。即ち「第一類、藏經」「第二類、全書」「第三類、單行本の古寫本、古刊本」「第四類、現在の單行本」「第五類、古逸書類」の五類であつて、其内容解説にあつては、六萬有餘全部に亘り詳細なる解説をなすことは到底紙數上よりも許されぬ事であり、且つ其の必要を認めぬ點もあるので、大體詳細解説するものとせざるものとに分ち、前記五類中の第一、二類即ち藏經、全書類を主とし、これに他の類本にして重要と認むるものに限り出来る丈内容そのものについて詳細な

る解説を施した。

一、本書の内容解説の形態はその要點を次の十項目とした。即ち、①題名、書名、具名略名異名併記。②卷數。③存、缺。④著者又は譯者、生存年代を併記。⑤著作年代又は譯出年代。⑥内容解説。⑦末書（注釋書參考書）。⑧寫刊の年月。⑨現所藏者、圖書館書庫名。⑩發行所名。の十項目である。この十項中前記第一、二類は⑧⑨を省略し、第三類は特に⑨の圖書館の函號を詳記し、披覽者に備へ、第四類は⑩の發行所名を記して入手に便益あらしめ、第五類は⑦の注釋書參考書に力を入れて研究に有利ならしめた。この方針に依れるを以て藏經の經律論、各宗の宗典類は悉く詳細なる解説が⑥に於いて執筆され、且つその解説に責任をもつべく夫々執筆者の署名を附記した。

一、本書の解説に於ける十項目の内容について一定の方針を示せば左の通りである。

①、題名にはすべて具名、略名、異名をつけた。且つ日本音、支那音の讀方、梵語名、西藏語名、巴利語名を附記した。

日・支・梵・藏・巴とあるがそれである。而して日本音の讀方はすべて羅馬字法を採用し、一字一字の間に接尾符（—）を附し、全體としては音便慣讀法を用ひ、促音其他の用法は便宜上大藏經南條目錄補正索引（昭和五年刊）に従つた。支那音はすべて現在の北京官話の正しい發音に依り、支那音を羅馬字に移す場合學者によつて相異なる點ありと雖も、本書は最も普通に廣く行はれてゐるトーマス・ウキード氏の式に従つた。大正一切經刊行會版の昭和法寶總目錄では佛蘭西語法を用ひたが、本書は右により英語法に依つて羅馬字化した。梵藏兩語名の記入は主として西藏甘殊爾勘同目錄（大谷大學圖書館昭和六年刊）により、巴利語名の記入は漢巴四部四阿含互照錄（赤沼目錄—昭和四年刊）に従ふことにした。

②、卷數は其典籍の卷數を記したが、丁卷の異なる場合あるものは一々これを附記した。

③、存缺に就ては、存は現在行はれてゐる藏經の種類別所收卷數、全書類は其所載卷號を記した。而して各種藏經及び目錄

には左の如く略符號を使用した。茲に出てくる數字番號は本書の「佛教典籍總論」並に「昭和法寶總目錄」と連絡をとり研究に資することにした。

大正——大正新修大藏經。縮——縮刷大藏經。卍——卍字藏經。卍續——續藏經。北——北宋版。南——南宋版。元——元版。明北——明北藏。清——清藏。麗——高麗版。天——天海版。指——指要錄。法——法寶標目。至——至元法寶勘同總錄。明南——明南藏。Z——南條目錄。出三藏記——出三藏記集。三寶紀——歷代三寶紀。法經錄——衆經目錄（法經等撰）。仁壽錄——衆經目錄（彥悰撰）。靜泰錄——衆經目錄（靜泰撰）。內典錄——大唐內典錄。譯經圖紀——古今譯經圖紀。武周錄——大周刊定衆經目錄。開元錄——開元釋教錄。貞元錄——貞元新定釋教目錄。佛全——大日本佛教全書。眞全——眞宗全書。眞大——眞宗大系。日藏——日本大藏經。

①、著者又は譯者は其人の生存年代を出来る丈精査して各種の史傳、目錄、年鑑、年表、系譜等により現存せるあらゆる參考資料を涉獵して正確を期した。但し傳記は人名辭書に譲るべき性質のものであるから特にこれを省略した。年代はすべて西曆を用ひ、年號は其の人物の生死國により、其國の年號をとり、一國に生れ他國に死したものは何れかの一國の年號を用ひた。年代中——線を用ひ、「年代——年代」なるは生死年を、「年代——」は生年、「——年代」は寂年のみ明らかなるもの、又兩者不明にて生存中の或る時期明白なるものは「——年代——」として記入した。年時帝世等すべて明らかならざるも、略々其時代を推定し得らるゝものは其推定年代に「？」の符號を用ひた。僧傳並に資料中生年を明記せざるも寂年享壽の判明してゐるものはその逆算により概ねこれを記入した。生死年代に諸説あるものは其中の一を採用若しくは一説として別出したものがある。

⑤、著作年代は著作若しくは譯出の年號を記入した。

⑥、内容解説は前述の如く主として第一・二類につき冗長繁文を避けて、名義・大綱・分科・判釋・傳通の範圍に於て詳記した。原典翻譯に關する歴史的説明譯出者の傳記等はこれを省略した。略名、異名を有するものは大藏經、全書類に標題とされ

た題名の箇所にて説明した。例へば次の部「俱全論」ではその題下に具名「阿毗達磨俱全論」と記し、詳細なる解説はアの部「阿毗達磨俱全論」に於てなしたるが如し。

⑦、注釋書參考書は典據を出来る丈詳細に調査して列記し、大體製作の年代順に従つて列舉した。

⑧、寫刊の年月、寫とあるは寫本、刊とあるは刊本のことにして、その出來の年代である。

⑨、現所藏者、圖書館書庫名は個人所藏のものは何某藏とし、圖書館所藏のものは其館名並に其館に於ける書目の函號を記入した。館名の略符は左の通りである。

谷大——京都大谷大學圖書館。龍大——京都龍谷大學圖書館。京大——京都帝國大學圖書館。正大——東京大正大學圖書館。駒大——東京駒澤大學圖書館。立大——東京立正大學圖書館。高大——紀州高野山大學圖書館。京專——京都（東寺）專門學校圖書館。哲——哲學堂圖書館。帝國——東京上野圖書館。內閣——內閣文庫。帝室——宮內省圖書寮。寶龜院——高野山寶龜院所藏。金剛三昧院——高野山金剛三昧院所藏。寶壽院——高野山寶壽院所藏。寶菩提院——京都寶菩提院所藏。

而して略符の下に數字等は何れも其所藏圖書館に於ける書架番號である。而して藏經、全書、叢書類は一般に現行されてゐるから所藏者（書庫）、發行所名は概ねこれを記入しないことにした。

千

千葉家系譜

① (日) Chi-ba-ke kei
-in. 千葉家西譽上人家系譜 ② 一卷 ③
存、觀智國師系譜附 ④ 寫本(正大、一五一
二・五)

千代見草

① (日) Chi-yo-mi-gusa.
② 二卷 ③ 存、近世佛教集説卷1 ④ 日遠
(元龜三—寛永一九 A.D. 1572—1642) ⑤
寶永七刊 ⑥ (京大、日大未・五五七)(谷大、
餘洋・四二四)(立大、A〇四・五七一五九、三
二〇)(龍大、二六九・一五)

地土の救主

① (日) Chi-tso-no-kyū-
shu. ② 一卷 ③ 存、曾我量深論文集卷二
④ 曾我量深著 ⑤ 大正一三刊 ⑥ 京都中
出版株式會社

地勢論

① (日) Chi-sei-ron. (支) Ti-
shih-lun. ② 一卷 ③ (參考) 東域傳燈目
録卷下

地動經

① (日) Ji-dō-kyō. (支) Ti-
tūng-ching. (日) A. VII. 70 Bhūmicāla
③ 存、中阿含經第九(大正一・四七・No.
26, 30)

地に惱める釋迦

① (日) Chi-i-
aya-me-tu-shi-ka. 戲曲地に惱める釋迦
② 一卷 ③ 存 ④ 友松圓諦著 ⑤ 大正一一
刊 ⑥ (龍大、二〇五・一五)

血潮の本願寺

① (日) Chi-shio-no-
hon-gwan-ji. ② 一卷 ③ 存 ④ 中村徳五
郎 ⑤ 大正六刊 ⑥ (龍大、一九四・三七)

血は輝く

① (日) Chi-wa-kagaya-
ku. 殉教神話血は輝く ② 一卷 ③ 存
佐々木教正 ④ 大正一五刊 ⑤ (龍大)

知安危三條第一

① (日) Chi-an-
ki-san-jō-dai-ichi. ② 一帖 ③ 存 ④ 徳
川時代寫 ⑤ (寶龜院)

知恩院

① (日) Chi-on-in. ② 一冊
③ 存 ④ 井川定慶編 ⑤ 昭和五刊 ⑥ 京都
知恩院

知恩院舊記採要録

① (日) Chi-on-
-in-ku-ki-sai-yō-toku. 總本山知恩院舊記
採要録 ② 一卷 ③ 存、大日本佛教全書第
一一七寺誌叢書第一 ④ 總本山知恩院舊記
採要録の下を見よ。

知恩院御取立御趣意覺書

① (日) Chi-on-in-o-toni-tate-go-shū-i-o-
boe-ki. ③ 存、大日本佛教全書第一一七
寺誌叢書第一

④ 徳川家と知恩院との縁故深き由來を書い
てゐる。徳川家の太祖新田義重京都在番中
の念佛歸依に初まり、第四代親忠のこと、
徳川家より知恩院に入寺せられたる超譽存
牛上人のこと、東照權現家康、秀忠等の歸
依と大造營、以下御影靈牌安置のこと、供養
物寄進等詳細に亘つて記してゐる。これは
辰二月知恩院役者より公儀に届出たる覺書
である。尙ほ追加數條を付してゐる。

知恩院御紋一件

(井川定慶)
① (日) Chi-on-in-
-go-mon-ik-ken. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本
(正大、一五一四・三四)

知恩院世代一覽表

① (日) Chi-on

-in-se-dai-ichi-ran-hyō. ② 一卷 ③ 存

知恩院増上寺記録拔書

① (日)
Chi-on-in-zō-jō-ki-roku-nuki-gaki.
② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(正大、一五一四・三
五)

知恩院、一乘院宮、大乘院宮、
坊宮諸大夫侍家傳

① (日) Chi-on-
-in, ichi-jō-in-no-miya, dai-jō-in-no-
miya, bō-no-miya-shō-dai-fu-samurai-
ka-den. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(龍大、二
九六・九)

知恩院由緒乃略記

① (日) Chi-on-
-in-yū-sho-no-ryak-ki. ② 二卷 ③ 存
④ 寫本(正大、一五一四・三七)(帝室、一一
一・二五)

知恩院通譽岸了上人末後事

實 ① (日) Chi-on-kyō-in-tsu-yo-gan
-i-yō-shō-nim-matsu-go-jū-jitsu. ② 一卷
③ 存 ④ 享保元刊 ⑤ (正大、一五一六・二
五七)

知恩講私記

① (日) Chi-on-ko-shi-
-ki. ② 一卷 ③ 存 ④ 寫本(谷大、宗大・五
九六)

知恩講式

① (日) Chi-on-ko-shiki.
吉水講式 ② 一卷 ③ 存、眞宗法彙之内、
翰林拾葉第二〇、一蓮院雜錄之内、

④ 眞宗にて法然上人の講會に用ひた講式、
知恩報徳の講會なる意味で知恩講式と呼ば
れたのであらう。本によつて其の式次に少
差はある。其の表白に於いては五段に分つ
て上人の徳が讃歎されてゐる。第一は諸宗

通達の徳、第二は本願興行の徳、第三は專
修正行の徳、第四は決定往生の徳、第五は
滅後利物の徳である。本願寺には第八世蓮
如上人の時代まで毎月二十五日の忌日には
此の講式を勤修されたが、第九世實如上人
の時代より、其曲譜の稍々難なるが爲に廢
せられたことが實悟記に見えてゐる。

此書は玄智の天明七年開板の眞宗法彙本
の版心には吉水講式とせられてゐるから、
其の名でも呼ばれたことが知らるゝ。又先
啓の眞宗聖教目録の謝徳講式の解説には或
は知恩講式と云ひ、或は尊師講式と云ふと
し、玄智の三卷本教典誌には知恩講式を解
説して亦謝徳講式と云ふとしてゐるから、
それ等の異稱があつたやうである。若し謝
徳講式が異稱であるとすれば、謝徳講式は
存覺の淨典目録、自著の部に於て、荒木滿
福寺空運の所望によつて草すたとせられてあ
る、高宮聖教目録はそれを受けて、而も存
覺一期記により、存覺上人七十二歳康安元
年四月の述作とし、眞宗法彙左券には延元
(文か)六年の著作として居るから、知恩講
式は存覺作と定むべきやうである。所が存
覺一期記、六十八歳、延文二年三月七日の
條下には空運が源海の講式を所望せしに對
して、存覺が起草して網羅に清書させられ
たとあり、七十二歳延文六年四月の條下
には空運の上洛に際し、先年草せられし所の
謝徳講式を添削せられて俊玄(善如)に清書
せしめたとある。寂慧の鑑古録には延文二
年謝徳講式を製作して善如に執筆させられ
たとある。これ等によつて見ると一期記の

源海が源空の誤りでない限りには謝德講式は知恩講式であるか源海講式であるか軽く定め難いやうである。随つて源海講式、謝德講式の著者は存疑であるが、知恩講式の著者は誰であるか俄に断定しがたい、又存疑作の道緯、善導兩師の講式である兩師講式も一本に「亦曰謝德講式」とあるから謝德講式の名は一書に限り難いやうにも思はる。

⑥〔参考〕淨土真宗教典志第一 ⑦天明七、真宗法彙に收めて刊行され、明治四五、兩師講式を合せて刊行する ⑧真宗法彙端本(龍大、一〇三・三三)(谷大、餘大・三八四三)明治四五刊(龍大、一〇六・四五)寫本(谷大、餘大・五九六、外大・一四五八、宗大・二八五四)

⑨〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑩〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑪〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑫〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑬〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑭〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑮〔参考〕淨土真宗教典志第三

⑯〔参考〕淨土真宗教典志第三

知元要論 ①(日)Chi-uen-yo-roa.

②三卷 ③存 ④潮音道海(寛永五—元祿八A.D.1693—1695) ⑤〔参考〕禪籍目錄

知死期儀軌 ①(日)Chi-shi-ko-ri.

②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤〔寶

善提院〕

知死期法 ①(日)Chi-shi-go-ho.

②二帖 ③慶政

④本朝台祖撰述密部書目に曰く「密開云。知死期法慶政者松月上人弟也。吉峯上人とも云。明恵上人契深人也」云々。

知自心鈔 ①(日)Chi-ji-shin-sho.

②一卷 ③存 ④成賢(應保二—寛喜三A.D.1162—1231)述 ⑤寫本(高木、寄・一・四八)

知自心鈔 ①(日)Chi-ji-shin-sho.

②二冊 ③存 ④勝覺(天喜五—大治四A.D.1057—1139)記 ⑤天正七寫(龍大、研

佛)天保五寫(正大、一四二・七九)寫本(高木、寄・一・四八、一・六四)

知自心鈔 ①(日)Chi-ji-shin-sho.

②一冊 ③存 ④道範(治承二—建長四A.D.1184—1252) ⑤寫本(高木、寄・一・六九)足利時代及徳川時代寫(寶龜院)

知事看護名籍 ①(日)Chi-ji-kan-go-myō-seki.

②一卷 ③存 ④寫本(龍大、別置)

知事清規 ①(日)Chi-ji-shin-gi.

②永平元禪師清規 ③存 ④道元希玄(正治二—建長五A.D.1200—1253) ⑤〔駒大〕

知事用心指南記 ①(日)Chi-ji-yō-jin-shi-nan-ki.

②一卷 ③存 ④補教祖

山 ⑦〔參考〕禪籍目錄

知周上人略傳 ①(日)Chi-sha-shō-nin-ryaku-den.

②一卷 ③存 ④宗川宗滿 ⑤大正一〇刊 ⑥(正大、一五一・二六八)

知儒編 ①(日)Chi-ju-hen.

②四卷 ③存 ④明周夢秀 ⑤明版(内閣文庫)

知心修要記 ①(日)Chi-shin-shū-yō-ki.

②存、大日本佛教全書第六六三大祖師法語之内 ③中聖撰

④時衆教團の僧尼をして目心著我の想を離れて、誓心堅固の所に居り當體口稱の極みに在れと教ゆるものである。即ち他阿眞教上人の道場誓文等と其の内容を等しうす。

知息鈔 ①(日)Chi-soku-sho.

②一帖 ③存 ④自性上人(一文保元A.D.1317)作

⑤寛永一九寫 ⑥(金剛三昧院)

知法經 ①(日)Chi-hō-kyō.

②(支)Chih-fa-ching (E)A. X. 85 Karthi ③存、中

阿合經第二三(大正一・五十二No. 26. 9)

知理途加 ①(日)Chi-ri-tsu-ka.

②根來知理途加 ③一卷 ④存 ⑤文化一四寫 ⑥(谷大、餘大・一〇七〇)

底瑟吒干栗多鈔 ①(日)Chi-shu-ta-ka-ri-da-shō.

②大毘盧遮那經住心鈔、大日經干栗多鈔、大日經住心鈔、大毘盧遮那住心鈔 ③七卷 ④存、大日本佛教全書第四

二 ⑤信證(應德三—康治元A.D. 1086—1143)撰 ⑥大毘盧遮那經住心鈔のLを見よ。 ⑦(京專)

底哩三昧耶經 ①(日)Chi-ri-sam-mai-ya-kyō.

②(支)Ti-li-san-mei-ya-ching. 底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法、不動尊威怒王使者念誦法、底哩三昧耶不動使者念誦品 ③一卷 ④存、大正二・七No. 1200、縮閣一三、二六・一〇、北1360、南1363佐、元1352佐、明北1058、清1058

言、麗1311尹、天1343佐、法1173八、至822流、明南997流、Nj. 1063 ⑤唐不空(神龍元—大曆九A.D. 705—774)譯

⑥底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法の下を見よ。

⑦平安朝時代寫 ⑧〔寶善提院〕

底哩三昧耶不動使者念誦品

①(日)Chi-ri-sam-mai-ya-fu-dō-shi-sha-nen-ju-hon.

②(支)Ti-li-san-mei-ya-pu-tung-shih-chē-nien-sung-pin. 底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法、不動尊威怒王使者念誦法、底哩三昧耶經 ③一卷 ④存、大正二・七No. 1200、縮閣一三、二六・一〇、北1360、南1363佐、元1352

佐、明北1058、清1058、麗1311尹、天1343佐、法1173八、至822流、明南997流、Nj. 1063 ⑤唐不空(神龍元—大曆九A.D. 705—774)譯

⑥底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法の下を見よ。

底哩三昧耶不動尊威怒王使者

念誦法 ①(日)Chi-ri-sam-mai-ya-fu-dō-shi-nu-ō-shi-sha-nen-ju-hō.

②(支)Ti-li-san-mei-ya-pu-tung-tsun-wei-nu-wang-shih-chē-nien-sung-fa.

③(支)Ti-

samaya-tia (引用) 底哩三昧耶不動使者念
誦品・不動尊威怒王使者念誦法・底哩三昧耶
經 ②一卷 ③存、大正二一・七No. 1200
縮開一三・二六・一〇、北1360惠、南1363
佐、元1333佐、明北1058言、清1058言、麗
1311尹、天1333佐、法1173八、至822流、
明南997流、Nj. 1063 ④唐不空(神龍元一
大曆九 A. D. 705—774)譯

⑤不動明王の本軌にして、釋迦牟尼佛が執
金剛菩薩の爲に説かれたものである。先づ
作法印明として、三業清淨・護身・三昧耶・
安穩・金剛杵・加持水土・辟除十方界・無能勝
金剛甲・灌頂・洗浴著衣・金剛座・布置聖衆・
金剛勝・金剛網・火焰・五供養・散施・機罪・虛
空眼・捧念珠・法界生・正念誦・百字明・廻向
發願・解界の順序にて明し、次に出道場以
後の喫飯時の印明・殘食供養の印明・寢息時
の淨室莊嚴印並に其の明、及び諸成就法を
説き、その成就法の中に、赤土色の紺を著
し、左に辨髮の髻を垂れ、眼は斜に視、左
手に劍、右手に索を執つて、寶蓮華に坐せ
る不動尊を、淨き髻の上に畫く法、四面四
臂にして、身を黃色に作り、上下に牙を出
せる不動尊を、自の旌の上に畫く法、自己
の血を以て、尸陀林の帛に不動尊を畫く
法、中心に釋迦牟尼佛を畫き、其の左に曼
殊童子、右に執金剛菩薩、菩薩の下に不動
尊を畫く法、赤土色の衣を著し、左に辨髮
を垂れ、眼は微に赤くして斜に視、右手に
金剛杵、左手に寶棒を執つて、蓮華上に坐
せる不動尊を畫く法等を明し、最後に根本
印明・心印明・劍印明・金剛杵印明・寶山印・

頭印・垂髮髻印・聖者眼印・口印・申印・師
子奮迅印・火焰印・制火焰印・商法印(寶山以
下の諸印には、本部中に愛樂する所の明を
用ふ)・索印明が列記してある。

⑦(參考) 貞元錄第一五 ⑧元曆元寫 (神林隆淨)
底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘
密法 ①(日) Chi-ri-san-mai-ya-fu-
do-son-shō-ja-nen-jū-hi-mitsu-hō. (支)

Ti-li-san-mei-ya-pu-tung-tsun-sheng-
ché-nien-sung-pi-mi-fa. 三卷底哩三昧耶
經 ②三卷 ③存、大正二一・一三No.
1201、縮餘一・二・三・一 ④唐不空(神
龍元一 大曆九 A. D. 705—774)譯

⑤上卷の不動明王本事神力息障祕要品第一
には、先づ大日經第二卷息障品第三の疏の
全文(疏第九卷奥より第十卷始に至る)を擧
げ、次に法界生眞言・不動の名相及び其の
標幟・三の呼字眞言・降三世明王眞言・三部
明王眞言等を説き、中巻已下は一卷の底哩
三昧耶經と大同であつて、巻中の根本眞言
品第二には根本眞言の字義、洗浴結護身品
第三には、極安穩護身・洗浴結護八方・洗浴
淨水・著甲・灌頂等の五印明、結護道場品第
四には、三昧耶・辟除障難・能成就一切事業
杵墻網・火焰等の六印明、供養品第五に
は、座・一切如來所生・懺悔・滿足・煥香・燒
香・華・飲食・燈・普莊嚴・虛空部母・法界生・
捻數珠・根本三昧耶等の十四印明と作法と
を明し、巻下の不動金剛祕要法品第六に
は、寶山印・頭印・髻印・眼印・口印・心印・師
子奮迅印・火印・法螺印等の九印、並に索・

解界・光莊嚴等の三印明を出し、無動金剛
事業求願品第七には、諸成就法と畫像法五
種とが説いてあるが、一卷の經の所説と殆
ど異なる所がない。之れを要するに、本經は
大日經息障品の疏と、一卷の底哩三昧耶經
とに基いて、不空三藏が新に編纂したもの
ではあるまいかと想像されるのである。底
哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法參照。

⑥鎌倉初期寫(寶善提院) (神林隆淨)

底哩三昧耶不動尊聖者念誦秘
密法 ①(日) Chi-ri-san-mai-ya-fu-
do-son-shō-ja-nen-jū-hi-mitsu-hō. 國譯底

哩三昧耶不動尊聖者念誦祕密法 ②三卷
③存、國譯一切經密教部四 ④岡田契昌譯

底哩三昧耶不動尊念誦法

①(日) Chi-ri-san-mai-ya-fu-do-son-nen-
jū-hō. (支) Ti-li-san-mei-ya-pu-tung-
tsun-nien-sung-fa. 底哩三昧耶不動尊聖者
念誦祕密法 ②三卷 ③存、大正二一・一
三No. 1201、縮餘一・二・三・一 ④唐
不空(神龍元一 大曆九 A. D. 705—774)譯

⑤寫本(寶善院)

底哩三摩耶不動法 ①(日) Chi-ri-
san-ma-ya-fu-do-hō. (支) Ti-li-san-mo-
ya-pu-tung-fa. 底哩三昧耶不動尊威怒王使

者念誦法・底哩三昧耶不動使者念誦品、不
動尊威怒王使者念誦法・底哩三昧耶經 ②
一帖 ③存、大正二一・七No. 1200、縮開
一三・二六・一〇、北1360惠、南1363佐、
元1333佐、明北1058言、清1058言、麗1311
尹、天1333佐、法1173八、至822流、明南997
流、Nj. 1063 ④唐不空(神龍元一 大曆九

A. D. 705—774)譯

⑤底哩三昧耶不動尊威怒王使者念誦法の下
を見よ。

⑥德川時代寫 ⑦(寶善院)

治國利民祕法相承系譜 ①(日)

Chi-ko-ri-min-hi-hō-ō-jō-kei-fa. ③
存、慈眼大師全集卷上 ④第四卷二九三頁
を見よ。

治法師法蘭五性難決釋文

①(日) Chi-hō-shi-hō-ni-go-shō-dō-ke-
ts-shaku-mon. ②一卷 ③最澄(神護景雲
元一弘仁一三 A. D. 767—822) ④(參考)

本朝古祖撰述密部書目

致延曆寺座主大和尚書 ①(日)

Chi-en-ryaku-ji-za-su-dai-o-shō-shō.

(支) Chi-hen-ji-shi-shō-chu-ta-ho-shang-
shū. ②一卷 ③存 ④克勤撰 ⑤寫本(京

大・藏・二四・三)

值遇觀音講式 ①(日) Chi-ō-kwan-
on-ko-shiki. ②一軸 ③存 ④貞慶(久

壽二一建保元 A. D. 1155—1213)作

利中期寫 ⑤(高・大・寄・一・四九)

智印經 ①(日) Chi-in-kyō. (支) Chih-
yin-ching. 大乘智印經 ②五卷 ③存、

大正一五・四七四No. 634、縮開一・二・一
六・二、明北1059言、清1009言、明南1071
言、Nj. 1014 ④宋智吉祥譯 ⑤皇祐五以
後(A. D. 1053—) ⑥大乘智印經の下を見
よ。

智慧眼 ①(支) Chi-e-gea. ②一卷

③存 ④無何有鄉人編 ⑤明治二六刊 ⑥

(帝國・四四・七四)

智慧莊嚴經

①(日) Chi-e-shō-gon-
gyō. (支) Chih-hui-chuang-yen-ching. 如
來莊嚴智慧光明一切佛境界經。佛境界經、
如來莊嚴佛境界經、如來境界經 ②二卷
③存、大正一一・三九 No. 337 縮字三、
三・一〇・六、北189卷、南200卷、元196卷、
明北241男、清241男、麗189男、天192卷、
指175卷、法185卷、至367良、明南190卷、
天1245 ④元魏曼摩流支譯 ⑤景明二一正
始四(A. D. 501—507)
⑥如來莊嚴智慧光明一切佛境界經の下を
見よ。

智淵私記

①(日) Chi-en-shi-ki.
②本朝台祖撰述密部書目に曰く「出密談
抄云。谷私記此私記少々被相具。件私記
谷深秘不傳人」云々。

智翁和尚行狀

①(日) Chi-o-o-shō-
gyō. ②一卷 ③存 ④〔參考〕 禪籍日
錄

智界

①(日) Chi-kai. ②一卷 ③延
享四寫 ④(叡山、滋賀)

智界印義

①(日) Chi-kai-in-gi. ②
五卷 ③存 ④澄蒙(正元元—觀應元A. D.
1239—1330)撰 ⑤〔參考〕 山家祖德撰述篇
目集卷下、密乘撰述目錄 ⑥(叡山文庫)

智界印義

①(日) Chi-kai-in-gi. ②
五卷 ③存 ④明全記 ⑤建曆三刊(南溪
藏、寶曆四寫(叡山、淨土))

智界最略抄

①(日) Chi-kai-sai-
ryaku-shō. ②一帖 ③存 ④足利時代寫
⑤(寶善提院)

智界私記

①(日) Chi-kai-shi-ki. ②

二卷 ③存 ④明達撰 ⑤〔參考〕 山家祖
德撰述篇目集卷下、諸宗章疏錄第二、密乘
撰述目錄 ⑥(叡山文庫)

智界理略次第

①(日) Chi-kai-
ri-kai-ryaku-shi-dai. ②二帖 ③存 ④
德川時代寫 ⑤(寶龜院)

智界略次第口訣

①(日) Chi-kai-
ryaku-shi-dai-ku-keisu. 智界略次第口訣
中院流 ②一冊 ③存 ④長淳記 ⑤天明
八寫(金剛三昧院)德川時代寫(寶龜院)

智覺菴開山大道和尚行狀

①(日) Chi-kaku-an-kai-san-dai-dō-shō-
gyō. ②一卷 ③存 ④〔參考〕 大日本
佛教全書續刊豫定書目

智覺禪師垂誡註解

①(支) Chi-
kaku-jū-zen-jū-shū-kai-chū-ge. 智覺禪師
垂誡註解、永明壽禪師垂誡註解 ②一冊
③存 ④一絲文守(慶長一三一—正保三A. D.
1608—1646)述 ⑤正保二刊 ⑥(高木、寄
一・二五)

智覺禪師自行錄

①(日) Chi-kaku-
zen-jū-jū-gyō-roku. (支) Chih-chiao-chūan-
shih-tū-hsing-lu. 慧日永明寺智覺禪師
自行錄 ②一卷 ③存、記續二・一六・一
④宋文冲編

覺禪師

①覺禪師が毎日自ら行持賞修せられたる
一百八の細目を録したもので、詳しくは
慧日永明寺智覺禪師自行錄と稱する。第一
に一生隨處に常に法華堂の莊嚴淨土を建つ
るの項に始まり頌文に終る。卷末に道光癸
卯(A. D. 1843)佛成道日に記したる梅嶼の
跋、及び遠行の跋を添へてゐる。

②明治四二刊 ③(駒大)(龍大、二〇三・四
一) ④京都藏經書院 (後藤大用)

智覺禪師垂誡

①(日) Chi-kaku-
zen-jū-shū-kai. ③存 ④一絲文守(慶長一
三一—正保三A. D. 1608—1646) ⑤寫本(龍
大、研佛)

智覺禪師垂誡註解

①(日) Chi-
kaku-zen-jū-shū-kai-chū-ge. 智覺禪師
垂誡註解、永明壽禪師垂誡註解 ②一卷
③存 ④一絲文守(慶長一三一—正保三A. D.
1608—1646) ⑤正保二刊 ⑥(谷大、餘大、
二六六四)

智覺普明國師行業實錄

①(日)
Chi-kaku-fu-myō-koku-shi-gyō-gō-jikan-
roku. ③存、續群書類從第九輯

夢窓國師の法嗣である京都覺雄山大福田

寶幢寺開山智覺普明國師春屋妙葩和尚の傳
記を門下の芳通和尚が編纂したものであ
る。

春屋和尚は諱は妙葩、春屋と號し、自ら

不輕子の別號をも用ひ、居に扁して芥庵と
題した。夢窓國師の姪である母と、甲斐の
平氏とを父として花園天皇應長元年十二月
二十二日(A. D. 1311)に生れ、三歳にして
夢窓國師に投じ、十七歳にして南禪寺に於
て受具し、元翁本元、清拙正澄、竺仙梵樞
等の尊宿に參じ、法兄無極志玄の會に第二
座となり、細川頼之に請せられて阿波の光
勝院を開き、足利尊氏に請せられて等持寺
に住し、後光嚴天皇の歸依を受け、佛光佛
國二師の爲に奏して國師號を賜り、後圓融
天皇に授戒して、智覺普明國師の號を賜つ

た。足利義滿、勅を奉じて師を僧録司に任
じ、寶幢寺を開創せしめた。後に天龍相國
に歷住し、京都の景徳寺、備後の天寧寺、伊
豫の安國寺、出羽の崇禪寺を開き、嘉應二
年八月十二日(A. D. 1383)壽七十八、臘六
十四にて鹿王院に示寂されたのである。受
度四部の弟子八千五百餘員。法嗣の中に
有名なのは、相國の萬宗中淵、建仁の祥庵梵
雲、寶幢の圓鑑梵相等で、其の法化の盛ん
なること、其の師夢窓國師に比肩すべきも
のであつたと云ふことである。

智覺普明國師語錄

①(日) Chi-
kaku-fu-myō-koku-shi-gō-roku. 普明國師
語錄 ②八卷 ③存、大正八〇・六三三 No.
2560 ④春屋妙葩(應長元—嘉慶二A. D.
1311—1383)語、周佐等編

①本錄は第一卷冒頭に、後圓融院より國師
に賜はりし宸翰を掲げ次に、天龍寺語錄、
南禪寺語錄、再住天龍寺語錄、臨川寺語
錄、南禪寺藏主察乘拂、天龍寺後堂乘拂を
收め、第二、三卷隱座、第四卷拈香、小佛事
第五卷佛祖贊、自讚、頌古、第六、七卷偈
頌、第八卷行業實錄、拾遺、付録の内容で
ある。天龍寺語錄は侍者周佐、南禪寺語錄
は侍者昌秀、再住天龍寺語錄は侍者周祐の
編纂にして、他は侍者門人等の編したも
のである。

師諱は妙葩、春屋と號し甲斐に生れ夢窓
の俗明なり、七歳虎谿に夢窓に見え具足
戒を受け、後南禪元翁に隨侍して宗教の語
脈を研究し、竺樞に參すること多年更に夢

寛の會下に入つて其の眞印を傳へ、臨川寺の復興を完し、天龍寺南禪寺に歷住し後足利義滿の請に應じて相國寺を開創し、亦た備州の天寧寺、豫州の安國寺、羽州の崇禪寺等皆師の創めた所である。後光嚴帝、後圓融帝、後小松帝等皆師に隨つて開法さる、後圓融帝の震輪に

『深く心法の根源を明らかに、道一代に著く、徳萬邦に被る、所謂僧中の龍、法中の王者なり、朕辱く内殿に迎へて付衣の儀を受け弟子の禮を執る、法を聞くの恩皇天極り罔し、爰に智覺普明國師の號を加へ、用つて皇天の下一人の上の尊たることを旌すと云ふ』

とあつて如何に尊崇し賜ひしかを知るに足る。將軍義滿亦師と仰ぎ、細川、山名、赤松、土岐等の諸星皆將軍に倣ひ、稍もすれば新興の禪が南都北嶺の制肘を受けたのであるけれども、當代までの先人の鴻業と師の如き人材輩出せしを以て、確固たる地歩を占むるに至つたのであつて、録中隨所に其の隆昌なりし狀を知るべきもあり。本録は筆寫によつて長く行はれて居りしも、寶永二年相國寺祖縁等が木活に付し、此の時拾遺部と附録とを特に附加したものである。

天保八刊 ①(駒大)(龍大) (林待雲) 智覺普明國師語錄附年譜拾遺

①(四)Chī-kaku-i-u-myō-koku-shi-go-to=ku-tsuketari-nen-pu-shū-i. 龍門一書 ②八卷 ③存 ④春屋妙葩(應長元一嘉慶二A.D. 1311-1388)語、周佐編 ⑤【參考】

禪籍目錄

智鑑禪師年譜 ①(日)Chī-kan-zen-ni-nen-pu. 正眼智鑑禪師年譜、安養山勅

②正眼智鑑禪師年譜、大猷和尚年譜 ③一卷 ④存、續群書類從第九 ⑤正嘉(一)元祿九A.D. 1696-1)編 ⑥正眼智鑑禪師年譜の下の見よ。

智經 ①(日)Chī-kyō. (支)Chī-chi-ng. (日)S. 12. 32 Katarakhatiya ②存、中阿含經第五(大正一・四五No. 26. 23)

智旭隨筆 ①(日)Chī-kyōka-zui-hi=tsu. ②二卷 ③存 ④智旭 ⑤刊本(正大、一三九・一二)(哲、二・四・左・一六)

智空聖人言上書 ①(日)Chī-kō-shō-nin-gon-jō-shō. ②存、叢書科本第一

九冊之内 ③(帝國、一〇四・三三) 智華印及五帖印口傳 ①(日)Chī-ken-in-oyobi-go-jō-in-ku-dan. ②一帖

③存 ④文永九寫 ⑤(寶龜院) 智華印訣 ①(日)Chī-ken-in-keitsu. ②一帖 ③存 ④北院御室(久安六一建仁二A.D. 1150-1202)記 ⑤足利時代寫

(寶龜院) 智炬陀羅尼經 ①(日)Chī-kō-da-ra-ni-kyō. (支)Chī-chū-to-to-lo-ni-ching. (梵)Jānolā-dhāraṇī (Ed. Petersburg Univ.) (藏)hphags-pa ye-ces ta-la-las-shes-bya-baji gzuns hgro-ba thams-cad yohs-su-sbyon-ba. (參照) 智炬經 ②一卷 ③存、大正二一・九一三No. 1397 縮成七、正二一・五、北456半、南469半、元464半、明北492行、清492行、慶483葉、天

488半、指411譜、法44譜、至64父、明南465行、正496 ⑥提雲般若譯 ⑦唐天授二(A.D. 692)

⑧維密經、佛日月宮中にあつて説く。智炬如來とは東方佛を指す。この陀羅尼を誦するものは地獄の苦を除き得と説く。

⑨【參考】開元錄第九、貞元錄第一三 (久野芳隆) 智光集外編 ①(日)Chī-kō-shū-ge-hen. (支)Chī-kuang-chi-wai-pien. ②一卷 ③存 ④清陳熙願撰 ⑤寫本(京大、藏二四・五)

智光清海曼荼羅合讚 ①(日)Chī-kō-sei-kai-man-da-ra-gas-san. ②二卷

③存 ④真阿觀微(明曆三—享保一六A.D. 1657-1731) ⑤正徳二刊 ⑥(谷大・宗大・一四九七)(正大、一五八・二二) 智光清海曼荼羅合讚講述 ①(日)Chī-kō-sei-kai-man-da-ra-gas-san-kō-jūsu. ②一卷 ③存 ④天保一五寫 ⑤(谷大・宗大・二八〇二)

智光曼荼羅合讚 ①(日)Chī-kō-man-da-ra-gas-san. ②一卷 ③存 ④觀微(明曆三—享保一六A.D. 1657-1731)撰 ⑤【參考】大日本佛教全書續刊豫定書目 ⑥(哲、二・三・右・二二)

智光滅一切業障陀羅尼經 ①(日)Chī-kō-metsu-is-sui-gos-shō-da-ra-ni-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-i-chieh-yeh-chang-to-to-lo-ni-ching. (梵)Jānolā-dhāraṇī-sarva-durgati-parisodhani (藏傳)(藏)hphags-pa ye-ces ta-la-las-shes

bya-baji gzuns hgro-ba thams-cad yoh-su-sbyon-ba. 智光滅業障經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

bya-baji gzuns hgro-ba thams-cad yoh-su-sbyon-ba. 智光滅業障經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

⑥維密經。智炬陀羅尼經と同本異譯。智炬陀羅尼經の下の見よ。 (久野芳隆) 智光滅業障經 ①(日)Chī-kō-me=tsu-gos-shō-kyō. (支)Chī-kuang-mieh-yeh-chang-ching. 智光滅一切業障陀羅尼經 ②一卷 ③存、大正二一・九一四No. 1398 縮成七、正二一・三、北1162家、南1172家、元1172家、明北830則、清830則、慶1169候、天1153家、法1285葉、至733履、明南837命、正835 ④施護譯 ⑤宋太平興國五以後(A.D. 980-)

ten. 改訂智山派宗典 ③存 ④金剛與昭
昭和七刊 ⑤智山派宗務所

智識善導和尚集 ①(日)Chī-shiki-
zen-dō-kwa-shō-shū. 善導和尚知識集 ②
一卷 ③稱名庵 ④(參考) 淨土依憑經論
章疏目錄

智識と信仰 ①(日)Chī-shiki-to-
shin-kō. ②一卷 ③存 ④等本純雅 ⑤
大正七刊 ⑥(谷大・餘洋・五九六)

智者全肝 ①(日)Chī-sha-zen-kan.
頓超秘密綱要 ②一冊 ③存 ④(哲・ま
一・中・一四)

智者禪師誦經觀 ①(日)Chī-sha-
zen-jū-kyō-kwan. ②一軸 ③存 ④德
川時代寫 ⑤(寶鏡院)

智者松嶺讚 ①(日)Chī-sha-zui-shō-
san. (支)Chī-chē-sai-sung-tsan. ②一
卷 ③頂禪師述 ④(參考) 日本國承和五
年入唐求法目錄、入唐新求聖教目錄

智者大師往生辨 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-to-jō-ben. ②一卷 ③存、天台摩
訶止觀玄談附 ④上田照通(文政一一一明
治四〇 A. D. 1828—1907) ⑤明治三一刊
⑥(正大・一三三・三〇)

智者大師畫讚註 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-gwa-san-chū. ②一卷 ③圓珍(弘
仁五一寛平三 A. D. 814—891) ④(參考)
山家祖德撰述篇目集卷上

智者大師畫讚註 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-gwa-san-chū. 天台大師註畫讚
②一卷 ③存、大日本佛教全書第三三・惠心
僧都全集第二 ④源信(天慶五一寛仁元 A.

D. 942—1017)

⑤惠心僧都全集所收のものは、その附記に
よるに、原本、比叡山戒光院堀惠師所藏
寫本全一卷により、東京安立院藏寫本全一
巻によりて對校せるものなるを知ることが
出来る。(自見直)

智者大師齋忌禮讚文 ①(日)Chī-
sha-dai-shi-sai-ki-rai-san-mon. (支)Chī-
che-ta-shih-chai-chi-yi-tsan-wen. 智者
大師禮讚文 ②一卷 ③存、大正四六・九六
六 No. 1948、正續二・三・一 ④宋蓮式
(乾德二—明道元 A. D. 964—1022)

⑤本書はこれまで天台智者大師(梁・大同四
—隋・開皇十七 A. D. 538—597)の遺忌に
當つて齋會を修してゐたが、皆修禮の法に
於いて闕けてゐる所がある。この故に齋忌
の式次を新らたに修訂したもの。卷首に遺
式は由序を附して本書撰述の來由を記し、
次に禮讚文を叙してゐる。初めに唱導文。
次に天台列祖奉請。次に讚數宣疏。次に頂
禮この頂禮段は大蘇修儀・華頂降魔・瓦官開
說法華・玉泉講說止觀・太極講演仁王・陳隋
兩國帝師・佛臨講解淨名・靈石海岸開演涅槃
放生池上講金光明・石城現寂滅・佛臨帝
封靈塔・十方世界普生佛刹の天台大師を歸
命頂禮す。次に天台列祖頂禮。次に五悔
(一心歸命普禮)五悔の第五發願の下に舊本
の發願文を附録してある。頂禮段と五悔段
とを七言八句偈で記したことに遺式の工夫
がある。故に天台大師傳の年序に配列され
てゐる短所も伴ふ。

⑥刊本(京大、藏・一八・四)(教山、普潤)

(谷大・餘大・二三三)

(田島德音)

智者大師修三昧常行法 ①(日)

Chī-sha-dai-shi-shū-san-mai-jō-jō-hō.
(支)Chī-chē-ta-shih-shū-san-mai-chi-
ang-hing-fa. ②一卷 ③(參考) 入唐新
求聖教目錄、慈覺大師在唐送進錄、日本國
承和五年入唐求法目錄

智者大師十二所道場說 ①(日)

Chī-sha-dai-shi-jū-ni-shō-dō-jō-sestan.
(支)Chī-chē-ta-shih-shih-eh-so-tao-
chang-shuo. ②一卷 ③灌頂(天嘉二—貞
觀六 A. D. 561—632) ④(參考) 諸宗章
疏錄第二

智者大師註畫讚 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-chū-gwa-san. ②一卷 ③圓珍(弘
仁五一寛平三 A. D. 814—891)

④諸宗章疏錄第二に曰く、按、範錄出大相
馬相及大綱集。檢台宗錄、未見。故今除
之云々。

智者大師傳 ①(日)Chī-sha-dai-shi-
den. (支)Chī-chē-ta-shih-chuan. ②
一卷 ③顏真卿(一興元元 A. D. 784)述
(參考) 新編諸宗教藏總錄第一

智者大師別傳 ①(日)Chī-sha-dai-
shi-betsu-den. (支)Chī-chē-ta-shih-pieh-
chuan. 智者別傳、天台智者大師別傳、隋
智者大師別傳、隋天台智者大師別傳 ②一
卷 ③存、大正五〇・一九一 No. 2080、縮
陽一、正三三・七、明北1570起、明南1563
蜀、正1577 ④隋灌頂(天嘉二—貞觀六
A. D. 561—632)撰 ⑤隋智者大師別傳の下
を見よ。 ⑥刊本(京大・一一・二・二)

智者大師別傳句讀 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-betsu-den-ku-tō. ②二卷 ③存

④可透撰 ⑤安永七刊 ⑥(叡山文庫)

智者大師別傳考證 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-betsu-den-ko-shō. ②一卷(上卷)

③存 ④忍鑑 ⑤刊本(谷大・餘大・二二
九)

智者大師別傳新解 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-betsu-den-shin-gē. ②二卷 ③
存 ④堯想親王(寛永一七—元祿八 A. D.
1640—1695)撰 ⑤(參考) 大日本佛教全
書續刊豫定書目 ⑥正本(妙法院藏)

智者大師別傳註 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-betsu-den-chū. (支)Chī-chē-ta-
shih-pieh-chuan-chū. ②二卷 ③存、正
續二・七・四 ④宋晏照註

⑤隋、灌頂撰になる智者大師別傳が、智顗の
行狀を編年體に記述せるものなるは周知の
ことであらう。而してこの書は、宋代晏照
によりて註せられし唯一のものである。

寛文九刊 ⑥(谷大・餘大・一一七六)(京
大・一一・二・一)(京專) (自見直)

智者大師和讃注 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-wa-san-chū. ②一卷 ③家寛(一
元祿頃 A. D. 1638—1703)撰 ④(參考)
山家祖德撰述篇目集卷下

智者大師和讃原鈔刊繆 ①(日)Chī-sha-
dai-shi-wa-san-ō-gi-wara-shō-kan-byō. ②一卷 ③存 ④敬雄
(一寛曆頃 A. D. 1751—1763)撰 ⑤寶曆
五刊 ⑥(叡山文庫)

智者別傳 ①(日)Chī-sha-betsu-de-

①(中)Chih-che-pieh-ch'uan. 隋智者大師別傳、天台智者大師別傳、隋天台智者大師別傳、智者大師別傳 ②一卷 ③存、大正五〇・一九一No.2050、縮陽一、二、三、七、明北五七〇起、南五五三、NJ.1577

灌頂(天嘉二)貞觀六A.D.561—632) ①隋智者大師別傳の下の見。②(參考)諸宗章疏錄第二

智積院誌 ①(日)Chishaku-in-shi. ②一卷 ③存 ④林田光禪 ⑤大正四刊

①(谷大、餘洋・四一七)(京專)

智首座に與ふる法語 ②(日)Chishu-zan-ato-u-ru-hō-go. ③存、國文東方佛教叢書第三法語部 ④素哲明峰(建治三)觀應元A.D.1277—1350)

智正寺再往御札 ①(日)Chishōji-sai-ton-tadashi. ②一卷 ③存 ④寛政四(A.D.1792) ⑤大正五寫 ⑥(谷大、宗大・二一四二)

智證大師一代略記 ①(日)Chishō-dai-shi-ich-dai-ryak-ki. ③存、佛教各宗續高僧傳(續帝國文庫第四九之内)

智證大師加筆文書 ①(日)Chishō-dai-shi-ka-hisun-mon-jō. ②一卷 ③存 ④貞觀九(A.D.867)正 ⑤寫本(谷大、別二一)

智證大師疑問事等 ①(日)Chishō-dai-shi-gi-mon-no-koto-tō. ②一軸 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶善提院)

智證大師九百五十年遠忌記 ①(日)Chishō-dai-shi-ku-hyakun-go-jū-nen-en-ki-ki. ②一卷 ③存 ④寫本(龍

大・二九六・一)

智證大師齋忌記 ①(日)Chishō-dai-shi-ai-ki. ②一卷 ③存 ④寫本(龍大・二〇七九)

智證大師請來目錄 ①(日)Chishō-dai-shi-shō-rai-moku-roku. ②一卷 ③存、大正五五・一〇二No.2173、大日本佛教全書第二 ④圓珍(弘仁五—寛平三A.D.814—891) ⑤天安三(A.D.859)四月

智證大師圓珍の入唐求法目錄であつて、卷頭に

兩京兩浙嶺南福建道等を巡歴して、大小二乘の經律論傳記並に大總持教曼荼羅、天台圓頓教文、及び諸家の章疏抄記、雜碎梵夾目錄等を傳へ得たり、前後總計肆佰肆拾壹本壹仟卷道具法物等都て計壹拾陸事並に謹んで具する名目左の如し。

と記せる如く請來の總目錄である、其の内容を表示すれば、

〔大乘經律論部〕仁王護國般若經二卷、什譯、以下四十五部。〔小乘經論傳記部〕長阿含十經法經二卷、安世高譯、以下二十五部。〔曼荼羅持念教法部〕大毘盧遮那成佛經七卷、無畏譯、以下九十四本一百二十八卷。〔道具部〕灌頂三昧耶五鈔并一口以下十事。〔法華部〕妙法蓮華經一本七卷、天台科點沙門良諤科、以下十八本二百二卷。〔正觀部〕摩訶止觀十卷、天台出以下八本四十六卷。〔雜經疏部〕金光明經四卷、曇無讖、以下二十九本百十卷。〔雜碑銘部〕南岳思大師碑文一卷、王郎中、以下十七本十

五卷。〔別家章疏傳記部〕新定一切經類音八卷、郭遵、以下百七十四本五百五卷。〔雜碎部〕大寶積經一卷、以下二十六本二十七卷。〔外道具等〕大那蘭陀寺佛殿前具多樹皮梵夾一以下八事。

右の如くであつて、法華部、止觀部中には圓教の法寶を曼荼羅持念教法部には密教の法寶を、別家章疏傳記部には禪並に律の法寶特に祖師關係の文獻の多數が含まれて居る。

卷末に謹送上太政大臣下伏奉結來縁とあつて當時太政大臣たりし藤原良房に送られたるものなること明かである。

①原本(聖護院)鎌倉時代寫(高山寺) ②版本(谷大)明治四二刊(正大、一〇〇・四一)

智證大師全集 ①(日)Chishō-dai-shi-shū. ③存、大日本佛教全書第二五二

一八

①(第一卷)法華論記十卷。〔第二卷〕授決集二卷。觀音菩薩行法經文句合記四卷。授菩薩戒儀一卷。六祖智證大師授菩薩戒儀書一卷。玄義略要一卷。止觀科節一卷。法華囑累前後問答一卷。諸家教相同異略集一卷。辟支佛義集二卷。大日經開題一卷。大毘盧遮那成道經心目一卷。大毘盧遮那經指歸一卷。大日經疏抄一卷。大日經義釋更問抄(殘缺)一卷。大日經義釋雜抄一卷。大日經義目録一卷。大日經義釋批記一卷。〔第二卷〕菩提場所說一字頂輪王經略義釋會本五卷。妙法蓮華經梵釋一卷。入真言門住如實見講演法華略儀二卷。法華曼荼

羅諸品配釋一卷。法華經兩界和合義一卷。胎金瓊伽記(大悲藏瓊伽記三卷。金剛頂瓊伽成身私記一卷。雜私記一卷)。決示三種悉地法一卷。佛母曼荼羅念願要法集一卷。建立曼荼羅大壇儀式略攝行法一卷。妙成就記朱註一卷。疑問二卷。些些疑文二卷。〔第四卷〕三部曼荼羅一卷。胎金血脈圖一卷。教示兩部秘要義一卷。阿母捺羅記一卷。慈母捺羅記一卷。大師在唐時記一卷。山王院在唐記一卷。理趣釋難義(殘缺)一卷。眞言疑目(殘缺)一卷。千手經通祕記(殘缺)一卷。雜抄(殘缺)一卷。雜記(殘缺)一卷。胎藏界略記(殘缺)一卷。不動立印次第(殘缺)一卷。護摩次第(殘缺)一卷。護摩私記(殘缺)一卷。護摩要集(殘缺)一卷。妙法記(殘缺)一卷。大日經疏爛脫(殘缺)一卷。詞字門(殘缺)一卷。般若心經釋(殘缺)一卷。祖記雜篇一卷。十三佛本地垂迹簡別釋一卷。實相觀一卷。一代肝心鈔(一卷)。生死本源集一卷。圓多羅義集一卷。阿字祕釋一卷。理智一門集一卷。入眞言門講法華法門一卷。顯密一如本佛義一卷。頓成菩提要一卷。法華論四種聲聞日記一卷。三大部切合一卷。阿若集一卷。比叡山元初祖師行業記一卷。傳教大師略傳一卷。感夢記一卷。行歷抄一卷。在唐日記一卷。開元寺求得經疏記等目錄一卷。福州温州台州求得經疏疏記外書等目錄一卷。青龍寺求法目錄一卷。日本比丘圓珍入唐求法目錄一卷。智證大師請來目錄一卷。批記集一卷(梵夾批記。福州悉曇批記。胎藏舊圖樣批記。五部心觀批記。千手經批記。胎二卷批記批記。

蘇悉地羯羅供養法批記。慈氏菩薩修瑜珈法
批記。灌頂儀軌批記。緣生論批記。法聰釋
觀無量壽經批記。瞿曇經批記。勝蔓經私
鈔批記。胎三卷記批記。印信之類批記。瑜
伽供養法次第批記。餘芳編年雜集。風藻
錢言集一卷。遺烈鑽仰集一卷。遺烈鑽仰集
一卷。比叡山延曆寺座主圓珍和尚傳一卷。

智證大師年譜一卷。文殊應化一卷。散出國史。山家諸祖撰述目錄抄出。帙外新定智證大師書錄三卷。祖釋目錄密抄出。祖釋目錄顯抄出。密乘撰述目錄抄出。山家祖德撰述篇目集抄出。諸祖製作目錄抄出。增補諸宗章疏錄抄出。日本國天台宗章疏目錄抄出。釋教目錄抄出。大師製作目錄一卷。台密略目錄抄出。台密諸祖撰述目錄抄出。傳燈瑜珈教籍志抄出。智證大師撰述目錄。智證大師全集分類目錄。

智證大師全集分類目錄 〇(日)

Chī-shō-dai-shi-zen-shū-bun-rui-moku-
roku. ③存、大日本佛教全書第二八、智證
大師全集第四

智證大師傳

天台宗延曆寺座主圓珍傳 ②一卷
 ③存、大日本佛教叢書第二八智證大師全集
 第四、續群書類從第八輯 ④三善清行(承
 和一一四一延喜一八 A. D. 847-914) ⑤延
 喜二(A. D. 902)

①智證大師圓珍の傳記の權威、正確精細を極める。

撰者清行は智證大師の晩年特に愛遇を受け、寛平三年備州に左遷され其の間寛平三年大師の示寂に遇ひ九年秋恩を蒙り徴され

て左尙書となり歸京し翰林學士に轉じた。

延喜二年僧綱所の牒により大師の遺弟相共に大師の傳を錄せんとするに當り、良勇は委しく大師平生のことを憶へ稿輿は遺文を勸し、慶雲・京意・惟瞻・悟忍・增命・增欽・慈鏡等の大弟子衆口討論して臺然之を筆受し、而して後更に之を落行に付して撰定せしめた。これは大師の御遺志でもあつたとはいひ、落行の筆を握るや一字一滴涙を流しつつ錄したといふ。斯くして成つた本書の價值は今更喋々するまでもない。終に上述の大弟子等の署名があり、更に寂後三十七年の延長五年十二月二十七日勅賜贈位諡號の官符並びに門人連署の賀表が付されてゐる。

奥書によると承久二年靜尊、永享九年實祐が書寫し、寶永元年に至り秀雲が之を得て歡喜踊躍、自ら序を付し叡岳四大師の中に收めて刊行した。

⑨(谷大、外洋・九〇五)(龍大)(關口慈光)
智證大師年譜 ①(日)Chi-shō-dai-

shih-ch'ang-p'u. 義祖大師年譜、山家六祖智證大師年譜、清和陽成光孝三朝國師智慧金剛智證大師年譜 ②一卷 ③存、大日本佛教全書第二八智證大師全集第四 ④尊通(應永三三—永正一三 A. D. 1427—1516) 續 ⑤應仁元(A. D. 1467)

光」とあるのも唐房行履録の總序のこと。

次に「智證大師年譜序、桃華老人撰。同年譜、尊通。題智證大師年譜後、惠風」とあるが、これが本書の目次である。桃華老人とは誰人か不明。老人の序文の終りに「寛正歲次三寶沈陽月十月」叙とあり、又「この比、三井の遠孫に尊通といふものあり、家譜を重校して師年表をつくつて以つて觀覽に便ならしめた」とあるから、本書製作年次は寛正年間(A. D. 1460—1465)と考へられる。然るに檀庵惠風京都東福

寺僧—A. D. 1465—の作に係る本書の跋文を見ると「智證大師が入寂した寛平辛亥（三年）から應仁丁亥（元年）までは殆んど十年に隣る。……其裔孫たる尊通師は始率を探搜した。……人に托して年譜の後に題を徴されたから、乃ち隨喜合掌して之れを書した。應仁丁亥、仲冬念九日。楳庵惠風拜識」とある。この文によれば應仁元年十一月二十九日に跋語を惠風が記したことになつてゐる。故に本書の原稿は少くも寛正實沈の年

●寬政八刊 ①(京大、日大未・二九一)
(關口慈光)

Chih-ch'eng-ch'uan. ②十卷(今合爲一卷)
③存, 已續二・一六・二附寶鏡三昧 ④宋慧
洪(熙寧四—建炎二A.D. 1071—1128)宋覺
慈編

⑤本書は黃龍三世として寶峯雲衲の眞淨克文禪師に嗣いだ覺範慧洪禪師（宋建炎二年寂、壽五十八）が末世の比丘等が大法の綱要を明めず祖訓を守らずして佛法衰微し外

道横行するを愛へ、法孫をして綱宗を究め祖令を行はしめんが爲に、諸經論の聖句、古祖師の機縁語要、並に其の提撕の要言等を引用し、其れに類似的の語句事項を併記して其の淵旨を鮮明にし、邪正是非を辨別せしめ、佛道に證入せしめんとしたものである。引證說話極めて適切にして學道者の南針となるものである。全十卷を合して一卷と成し、寶鏡三昧を註解した一卷を附したもので、續藏所収の本書は、明萬曆十三年六月(A.D. 1585)達觀真可禪師が重刻序を撰した重刊本である。

覺範は、諱德洪、字覺範、初名慧洪、賜號寶覺圓明、自ら號して寂音尊者と稱したもので、石門の洪覺範として喧傳せられ、石門文字禪三十卷、林間錄二卷、禪林僧寶傳三十卷、冷齋夜話十卷、法華合論七卷、楞嚴經論十卷、圓覺證義二卷、甘露集三十卷、起信論解義二卷、天厨禁臠、金剛法源論各一卷、其他の著作多く、道念深厚にして博學多才であつた、従つて本書に引用する語句も博く説話も適切である。

【参考】 禪籍志卷下 ④光緒二刊(京大、藏・一七・一)刊本(立大、A一六・六)哲、ふ・三・右・二五(龍大、二〇三・四一)

智泉記

①(日) Chi-sen-ki. ②(参考) 密乘撰述目錄

智泉大德大事

①(日) Chi-sen-dai-toku-dai-j. ②一巻 ③存 ④徳川時代寫

智袋

①(日) Chi-tai. ②三冊 ③存

①如實(一建永元 A.D. 1206) ②(参考) 諸宗章疏錄第三 ③足利末期寫(金剛三昧院)(寶龜院)徳川初期寫(金剛三昧院)(寶善提院)寶曆六寫(谷大、餘小・五〇)(京大、一〇六四)

智重正禪師語錄

①(日) Chi-tan-shō-zen-jō-go-toku. (支) Chi-tan-chōng-ch'an-shih-yu-tu. ②一巻 ③存 ④清智

智智寶藏重門略決

①(日) Chi-chi-hō-zō-jō-mon-ryak-ketsum. ②後範(一承久頃 A.D. 1219-1221)撰 ③(参考) 山家祖德撰述篇目集卷下

智通禪師語錄

①(日) Chi-tsū-zen-jō-go-toku. (支) Chi-tung-ch'an-shih-yu-tu. ②一巻 ③存、大正四七・五八二

智度無極誓經

①(日) Chi-do-mu-goku-hi-kyō. (支) Chi-tu-wu-chi-pi-ching. ②三巻 ③大品般若の抄出。 ④(参考) 仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

智度論

①(日) Chi-do-ron. (支) Chi-tu-lun. ②大智度論、摩訶般若波羅蜜經釋論、大慧度經集要、大智度經論、摩訶般若釋論、大論、智論、釋論 ③一百巻 ④存、大正二五・五七No. 1509 縮往一一五、正一九・九一二〇・四、北553聖至空、南556聖至空、元556聖至空、明北1163傳至叔、清1163傳

至叔、麗556作至正、天559聖至空、指517作至正、法583作至正、至1276滿至好、明南1338友至隱、天1169 龍樹造、鳩摩羅什譯 ⑤弘始四一七(A.D. 402-405)

①智度論とは「大智度論」の略稱である。また、更に略稱して「大論」「智論」「釋論」などと呼ぶところ。「大智度論」とは、摩訶般若波羅蜜經 Mahāprajāparmitā Sūtra 釋論の意味であつて、摩訶 maha は「大」。般若 Prajñā は「智」。波羅蜜 Paramitā は「到彼岸」即ち「度る」を意味する。であるから、梵名に作れば Mahāprajāparmitā (-Sūtra) 「Sūtra」となる譯であつて、①に挙げた異名の中、摩訶般若波羅蜜經釋論等は何れも此意味を現したものである。即ちこの論の譯者羅什が、同じく翻譯したところの、摩訶般若波羅蜜經を龍樹が親しく註釋したと傳へらるゝものである。

佛教に於ける大乘運動は云ふ迄もなく般若經典を基として發端するものであり、龍樹の中心思想は亦是に基き、その主著「中論」はひたすら般若思想の透徹に外ならぬ。

從て親らこの經を註釋せりと傳へらるる、此論作は素より佛教思想史上甚だ重要な地位に立つものであるが、更に龍樹は「中論」に於て其思想の消極的否定的部面のみ現したるを、この論に到つて進んで積極的肯定的部面を展開した事に於て、甚しく重要視せられる。即ち、中論が専ら般若經思想を中心とせるに對し、この論は、夫自ら般若經の註釋でありながら、更に進んで、法華經等の積極的思想を包含し、それ

によつて般若空を解してゐる。茲に於て次の結果を導いてゐる。般若空は素より大乘諸思想の原基であり、それを基として一切の思想が躍出するものであるが、この論があたかも、その積極的部面を表示したる事によつて、後來の一切大乘思想の豊かな母胎となつてゐることである。龍樹が「八宗の祖師」と名けられてゐる原因は、主として後來の佛教諸思想が、その源をこの論の中におくからである。のみならず、龍樹は、その豐麗なる註解の中に於て、甚だ夥しく佛教語彙を盛り、大乘的見地に於て説明してゐることから、一面に於て此論は大乘に於ける一大エンサイクロペディアたる役目を果してゐる。かゝる意味に於て此論は一面に於て大乘思想の積極的初原であると共に他面後來の佛教諸思想としては如何にしても、これとの干渉を脱する能はざる程の重要文獻である。以下少しく項を分つて之を解説しやう。

A、傳譯

この論は梵文原典を缺いてゐる。また龍樹の傳を檢しても是に當るものを確定し得ない。たゞ傳に『廣く摩訶延を明らかにして優波提舍十萬偈を作り……』とあるのが論の僧數序文に「論の略本十萬偈有り」とあるに相應するから、恐らく此論を意味するのだらうと推定されるが確かではない。譯者、鳩摩羅什が、後秦姚興に迎へられて長安に入つたのは弘始三年であつた。三寶興隆の念篤い興は、彼を優待して僧數、僧榮、僧契等の英才を彼の門下を集めて、

逍遙園及び西明閣に於て、専ら經論の翻譯に努めしめた。弘始六年四月小品般若四十卷の譯成るや、この釋論譯出に努め、弘始七年十二月二十七日遂に完成した。實に西紀四〇五年であつた。僧叡の論序に依ると『經本既に定まり、乃ち此釋論を出す。論の略本十萬偈あり、偈三十二字ありて、並びに三百二十萬言なり。梵夏既に乖き、また煩簡の異あり、三分して二を除いて、此百卷を得、大智三十萬言に於て、玄章婉旨、朗然として見るべし』とある。また論後の附記によると『論の初品三十四卷は一品を解釋す。是れ全論の具本なり。二品已下は、法師之を略して其要を取る。以て文意を開釋するに足るのみ。復た其廣釋を備えずして此百卷を得。若し盡く之を出さば、將さに此に十倍すべし』とある。即ち、龍樹の原章を示すのは、經の初品を釋する三十四卷迄であつて、以下は「秦人簡を好むが故に」羅什が自ら之を短縮したのであつて、全論は三分の一或はそれ以下に抄譯せられてゐる譯である。従て是を論に就て見ても、初め三十四卷の叙述は委曲を盡し、かつ其内包するところの思想價值も亦重大である。但し、其後流傳の間恐らく其の浩幹なりし故か傳に依て文字錯雜多く、更に之を發掘古本に照して、現行猶補正をまつ箇所少なからざるを認める。

B、構成

本論は小品般若經の釋であるから、從つて譯と論の叙述も、各その釋するところの經文を漸次羅列し、それに添ふて解釋を加

へる方法を取り、別に本論独自の網格に依るものでない。従てその思想も亦一の體系を形づくりつゝ説かれてない。機會に應じて散説せられてゐる。そして其間に縱横に種々なる名辭の説明が嵌入せられてゐるのが、此論をして、一面大乘百科全書たる意味を持たせた譯である。其の内容を目次すれば次の如くである。

僧叡序

初品 一 序……緣起

二 如是我聞一時

三 總說如是我聞

四 婆伽婆

五 住王舍城

六 共摩訶比丘僧

七 四衆

八 菩薩

九 摩訶薩埵

一〇 菩薩功德

一一 十喻

一二 意無礙

一三 佛土願

一四 放光

一五 同

一六 十方諸菩薩來

一七 同

一八 舍利弗因緣

一九 同

二〇 讚嘆波羅蜜

二一 同

二二 讚嘆波羅蜜

二三 同

二四 讚嘆波羅蜜

二五 同

二六 讚嘆波羅蜜

二七 同

(論)

第一卷

第二卷

第三卷

第四卷

第五卷

第六卷

第七卷

第八卷

第九卷

第十卷

第十一卷

第十二卷

第十三卷

第十四卷

第十五卷

第十六卷

第十七卷

第十八卷

第十九卷

第二十卷

第二十一卷

第二十二卷

第二十三卷

第二十四卷

第二十五卷

第二十六卷

同

二 尸羅波羅蜜

三 戒相

四 讚嘆波羅蜜

五 同

六 摩提波羅蜜

七 毘梨耶波羅蜜

八 同

九 禪波羅蜜

一〇 般若波羅蜜

一一 般若相

一二 三十七品

一三 三三昧

一四 四無量

一五 八背捨

一六 九相

一七 八念

一八 同

一九 十想

二〇 十一智

二一 十力

二二 四無畏

二三 十八不共法

二四 大慈大悲

二五 欲住六神通

二六 布施隨喜心過上

二七 同

二八 迴向

二九 善根供養

四〇 諸佛稱讚其命

四一 十八空

第三卷

第三卷

第三卷

第四卷

第五卷

第六卷

第七卷

第八卷

第九卷

第十卷

第十一卷

第十二卷

第十三卷

第十四卷

第十五卷

第十六卷

第十七卷

第十八卷

第十九卷

第二十卷

第二十一卷

第二十二卷

第二十三卷

第二十四卷

第二十五卷

第二十六卷

第二十七卷

第二十八卷

第二十九卷

第三十卷

第三十一卷

四緣

一〇 到彼岸

一一 見一切佛世界

同

三 信持無三毒

第二報應品(奉鉢品)

第三智相應品

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三卷

第三—勝出品	第五卷	第七—道樹品	第八卷
第三—合受品(等空)		第七—菩薩行品	
第三—會宗品	第五卷	第七—種善根品	
第三—十無品	第五卷	第七—遍學品	第六卷
第三—無生品	第五卷	第七—次第學品(三次)	
第三—天主品	第五卷	同	
第三—幻人聽法品(幻聽、如幻)	第五卷	第七—一心具萬行品(一念)	第七卷
第三—散華品		第七—六喻品	第八卷
第三—願觀品(三嘆)	第六卷	第七—四攝品	
第三—滅諍亂品(滅諍)		同	
第三—寶塔校量品	第五卷	第七—善達品	第九卷
第三—述誠品		第八—實際品	
第三—勸受持品	第五卷	第八—淨佛國土品(淨土)	第九卷
第三—梵志品(遺異)		同	
第三—阿難稱譽品(尊導)	第五卷	第八—淨佛國土品(淨土)	第九卷
第三—校量舍利品	第五卷	第八—四諦品	第九卷
第三—校量法施品	第六卷	第八—七喻品	第九卷
第三—隨喜迴向品(隨喜)	第六卷	第八—平等品	第九卷
第四—照明品	第六卷	第八—涅槃如化品(如化)	第六卷
第四—信誨品(信毀)		第八—薩陀波嚢品	第七卷
第四—同		同	
第四—歡淨品	第六卷	第八—曼無竭品	第九卷
第四—同		同	
第四—無作實相品(無作)	第六卷	第八—囑累品	第九卷
第四—同		同	
第四—諸波羅蜜品(百波羅蜜)	第六卷	第八—內容	
第四—歡信行品(開持)	第六卷	初に述べた如く、本論は「大品般若」の	
第四—同		釋論でありながら、また「中論」に於ける	
第四—魔事品(覺魔)	第六卷	龍樹思想の積極的補充もあり、また發展	
第四—同		でもある。そして是れを此以後の佛教より	
第四—兩不和合品	第六卷	見るならば、般若を胚種として種々なる積	
第四—同			
第四—佛母品(報恩)	第六卷		
第五—問相品	第七卷		
第五—大事起品(成辨)			
第五—譬喻品	第七卷		
第五—善知識品(善知識發心)			
第五—趣一切智品(趣智)	第七卷		
第五—大如品			
第五—阿毘跋致品(不退堅固)	第七卷		
第五—轉不轉品			
第五—燈炷品	第七卷		
第五—夢中入三昧品(夢行)	第七卷		
第五—恒迦提婆品(河天)			
第五—學空不證品(不證)	第七卷		
第五—夢中不證品(夢誓)			
第五—同			
第五—同學品(魔惑)	第七卷		
第五—等學品			
第五—願樂品(淨願)	第七卷		
第五—稱揚品(度空)			
第五—同			
第五—囑累品	第七卷		
第五—無盡方便品(無盡)	第八卷		
第五—六度相攝品			
第五—同			
第五—大方便品	第八卷		
第五—同			
第五—三慧品	第八卷		
第五—同			

はない。自性空なることは存在の實相であるから、實相に隨順して眞實相に於て眞に生きたる爲に外ならぬのである。蓋し一切存在は實在としては、悉く空であるけれども、然し縁起としてはそれはまた悉く實でなければならぬ。なぜならば、縁起の原理は眞實であり、その眞實に依る存在であるから、その限り眞實と云はねばならぬ。かくて立場の止揚に依て、さきの否定はやがて高次の肯定となつて来る。即ち實相の見地に於ける凡夫に於ては一切諸法は虚証であるが、然し縁起を體認する聖人に於ては虚証ではない。眞實である。この境地は相對の域から脱し難い判斷の世界ではない。有に非ざると共に、また無に非ざるもの、かゝる對立の邊を躍出して一切存在の實相に入れるもの、これを諸法實相、眞實際、法性と名ける。一切法の實相は名づけて法性と爲す。是故に一切法は皆な法性の中に入る（八十九）のである。さればこれを世俗の意味に於て表現すれば、一切存在は「空」である。然しながら第一義の意味よりすれば、有無を超えたる「不可説」なる具體的實相である。かゝる意味より佛は隔歴せる彼所に輝く相對的な何ものかではない。この眞實相に徹するものに外ならぬ。かくて、生死即涅槃であり、成佛はまた可能となるのである。

つまりこゝに般若の空思想が、徹底せられる事に依て一轉して、諸法實相の積極的肯定へ止揚されてゐる。論には、これを共般若、不共般若に分て區別してゐる。即ち

前者は般若經一般の思想で三乘凡てに通じて解せらるゝもの、後者は法華經不思議解脱經等の思想であつて秘奥甚深の最上義とせらるゝ。この立場に於て從來佛教諸思想は悉く綜合せられて豐麗なる全論が展開するのである。

D、影響

龍樹が「八宗の祖」と呼ばれ、後世大乘諸思想鑄てその淵源を彼に求めるのは、多く本論の故であつて、後世佛教への影響は、それだけ多岐であり、詳説の邊はない。先づ此論に於ける認識論はまた對象と主觀との相依に依て認識の成立を論じておるが、その中に於て特に唯心の傾向強く「三界の所有は皆な心の所作なり（二十九）」と云ふが如き主張は隨處に認めらるゝが、是はやがて瑜伽唯識の思想を喚起すべき前驅をなすものであつて、唯識の思想としても其根本的立場に歸りて見れば、中觀の思想を基として一切現象の説明に唯心論的展開を遂げたに外ならぬ。また『起信論』とて絶對空と中道實相とを相即せしめたる立場に立つものであつて、またこの影響下に立つと云ふ事は出来る。またこゝに説かるゝ佛の二身説に於ける法身の具體的能动性はやがて法身説法を中核とする「密教」の先驅をなすものであるが、更に陀羅尼の功德までこゝに盛られてゐるは、密教傳説の實證的要素をなすものである。また淨土教に關する直接の影響は、是を龍樹の他の著十住毘婆沙論易行品に譲るとしても猶、本論の隨處に阿彌陀佛國土の稱讃を示し、

後世龍樹が淨土七祖の隨一として崇めらるる事の偶然ならざるを示しておる。

支那に於ては、傳譯者羅什の門下僧肇・道融等は早く江北に「四論學派」を起して此論尊重の意を明にしたが、四論の傾向は遂に「天台宗」を引き起し、その第一祖と仰がるゝ慧文は此論の「一心自得」の文に接して開悟せりと云ふは、たとひ後世の傳説と云へあまりにも有名であり、智顗の教養と思想に於ける顯著なる關聯はまた蔽ふべくもない。また「華嚴」法界緣起説は諸法實相を如來藏緣起的に見たものであり、不共般若の立場から唯心緣起的に組織したものと見ることが出来るのであつて、むしろ其中核を發展せしめたものと云へるであらう。更に曇鸞は四論の出身であつて、その淨土論註がまたこの中道思想に基礎を置くものであり、善導はその禮讃に（十七）の文を引いてゐる。更に「禪宗」はむしろ三論系統をうけたる般若空の實踐的發展に外ならぬ。

かやうにごく概観しても、この論の後世佛教に對する隅なき影響を窺ふことが出来るであらう。我國の佛教に對して、既に聖德太子維摩經疏に引用せらるゝに初まつて後代所依若しくは引用せらるゝところむしろその類に堪えない。

名教一卷。略抄二卷（刊）證眞。略頌十卷（刊）義觀

〔參考〕 出三藏記第二、三寶紀第八、內典錄第三、譯經圖記第三、開元錄第四、貞元錄第六、東域傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第三、淨土眞宗教典志第一 ①一冊一二五冊（哲、ヤ、二・中・四）二五冊一五〇冊（哲、ヤ、二・左・一）正保四刊（正大、一一三・二、一六）寛文元刊（正大、一一三・一、一八）（龍大、二三・九）刊本（谷大、餘六七二）（京專）正大、一一三・三、一四（眞野正順）

智度論音 ①（日）Chi-do-ron-on. ②（支）Chi-tu-lun-yin. ③一卷 ④〔參考〕傳教大師將來越州錄

智度論疏 ①（日）Chi-do-ron-sho. ②（支）Chi-tu-lun-shu. ③十四卷或五卷 ④僧促述 ⑤〔參考〕諸宗章疏錄第一、東域傳燈目錄卷下、奈良朝現在一切經疏目錄2531.2533

智度論疏 ①（日）Chi-do-ron-sho. ②（支）Chi-tu-lun-shu. 大智度論疏 ③二十四卷 ④存、正續一・七四・三、一・八七・三 ⑤北周惠影（一開皇末？ A.D. 600）述 ⑥大智度論疏の下を見よ。 ⑦〔參考〕諸宗章疏錄第一

智度論疏 ①（日）Chi-do-ron-sho. ②（支）Chi-tu-lun-shu. 大智度論疏 ③二十卷 ④隋智顗（中大通三—開皇一七 A.D. 531—597） ⑤〔參考〕諸宗章疏錄第二

智度論鈔 ①（日）Chi-do-ron-sho. ②（支）Chi-tu-lun-sho. ③十五卷 ④影述 ⑤〔參考〕諸宗章疏錄第二